

第44回 全日本バレーボール小学生大会 沖縄県大会

《審判上の確認事項》

沖縄県小学生バレーボール連盟 審判委員会

2024年度公益財団法人日本バレーボール協会6人制競技規則により実施する。

但し、別に定める小学生バレーボール競技規則を用いる。また、本大会はテクニカルタイムアウト2回を採用する。

第1セットおよび第2セットでは、リードするチームが7点・14点目に達した時、第3セットは、リードするチームが8点目に達した時、セカンドレフェリーのホイッスルにより30秒間のテクニカルタイムアウト（選手の健康管理を考慮する為のタイムアウト）が適用される。

第3セットのテクニカルタイムアウトは、チェンジコートでファーストレフェリー側の支柱外側を回ってきたチームの最後尾の選手がセカンドレフェリー側のサイドラインを通過した時点から30秒を計時する。さらに、デュースが続く場合、第1セット及び第2セットは両チームが25点に達した時に適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、第3セットでは両チームが21点に達した時に適用し、その後は、両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。

〈競技関係〉

(1) トスは、両チームのチームキャプテンが立ち会いのもとに、試合開始11分前に行う。

(2) グリーンカードは、フェアプレーの精神を醸成するため活用する。試合中だけではなく、積極的にグリーンカードを出して下さい。

※大会全般において全ての役員が常備し、使用することができる。選手に対する教育的側面からフェアプレーやマナー（他者への思いやり）・頑張りを褒める為にレフェリーが使用している。

(3) 監督はスコアラズテーブルに最も近い位置でベンチに座り、ラリー中はベンチに座っていなければならない。ラリー終了後、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で指示を出すことができるが、みだりに監督が立ち上がったたりする行為を許容するものではない。過度に目的を逸脱した行為に対しては、競技規則（第21条不法な行為とその罰則）により適切に処置する。チーム競技者への暴言（「へたくそ」「やめちまえ」「帰れ」「アホ」「バカ」）などに対しても適用する。

(4) テクニカルタイムアウトは、選手及びスタッフ（小学生）の健康管理の為のタイムアウトである。選手は、ベンチの外側の端（給水場所はベンチ横）に位置する。この時選手はベンチに着席してもよい。ベンチスタッフ（大人）は、選手及びスタッフ（小学生）全員が給水できるように準備する。給水を行うか否かの判断は選手本人の意思による。ベンチスタッフが選手に話しかけるときは、ベンチスタッフ自身が規定の位置に移動する。

※ベンチスタッフは健康観察を行い、不調が疑われる選手には直ちに対応する。レフェリーは必要に応じて疑われる選手の体調についてベンチスタッフに質問する事ができ、不調が疑われる選手への対応を指示することができる。ベンチスタッフは、選手の体調について質問があった場合は、正確に回答できるように準備しておく。

テクニカルタイムアウト時は、選手はモップ掛けを行わない。（ベンチスタッフは可）

(5) タイムアウトの要求には必ずハンドシグナルを用いること。タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒間を待たずにコートに戻っても良い。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。また、選手交代については、交代選手がサブスティチューションゾーンに入り、片手をあげ速やかに交代を行うこと。

※選手交代は小学生の特性なども考慮し、レフェリーはチームの意向になるべく沿うようにする。選手が誰と交代するのか理解していない場合はセカンドレフェリーが監督に尋ねたりサブスティチューションゾーン（選手交代ゾーン）手前で立ち止まったらゾーンに入るように促したりする。

- (6) プレー中でない選手はベンチ横に座っているか、チームのウォームアップエリアにいないかならない。(会場の競技委員長、審判委員長に場所の確認をすること)
- (7) 試合中のレフェリーに対する質問は、ゲームキャプテンのみ行うことができる。監督は認められない。
- (8) 不法な行為(反スポーツマン的行為や言動)に対しては厳正に処置する。(退場・失格)
- (9) 試合中コートが濡れた場合は、コート内の選手がタオル等を用いて行う。ラリー終了後速やかに拭くこと。コート内の選手にワイピング用のハンドタオルを持たせるよう、レフェリーからベンチスタッフに伝えること。※各チームで十分な枚数のワイピング用ハンドタオルを準備すること。コート外まで幅広く濡れた場合は、レフェリーが判断して指示するので、その指示に従い対応すること。尚、柄付きモップの使用は、タイムアウト・セット間、もしくはレフェリーが指示したときのみである。この場合は、ベンチにいる競技参加者が速やかに行うこと。(選手やベンチスタッフ、レフェリーに対してワイピングの要求をすることは、遅延行為の対象となることがある。)
- (10) 可能な限り各会場にコントローラーを配置するので、試合前の打ち合わせや確認を綿密に行ってください。試合中、ファーストレフェリーの決定は最終である。(ファーストレフェリーの判断で判定や取り扱い等の疑義等について、コントローラー・副審判長・審判長の意見を聞く事ができる。)
- (11) レフェリー(ファーストレフェリー・セカンドレフェリー) 行う際はレフェリーウェアを着用しなければならない。(アンダーウェアの着用は認めない) 各チームでレフェリー、コートオフィシャルができること。コートオフィシャルの際は、ユニホーム以外を着用して行うこと。(チームTシャツ着用など)
- (12) ベンチスタッフ服装について、シャツのイン・アウトについてはノーコントロール。選手については、インを基本とする。ハチマキはユニホームではない。ヘアバンドと同じ取扱とする。
- (13) 試合開始・終了時の両チームの挨拶については、選手はネットを挟んで握手をする。監督は、試合終了後に審判員と握手をする。→コロナ禍前に戻す。